

令和三年度 入学試験（一般 第一回）問題（国語）

【1】～【6】に答えなさい。

年が新しくなるということは、私などになるともう、わが年齢を数えるというときである。ふだんにしろ、年齢を数えないわけではないが、ひとつ重ねるという思いはやはり新年の感覚であって、ここまで生きる命であったか、と改めて越し方を振り返りもする。

ここまで生きた、とおもえば、それは老いの時期に充分達したことの自覚にちがいないが、私の自覚などというものは日常の継続にからまれ、ふだんは底に沈んでいて、何かでときに浮上するという程度にすぎない。自分のこの時期のそんな心の動きを、これが老年の持つ状態か、と考えもある。自分の命の終わるときを、始終おもうのは嘘ではない。

私が昨年、わが家の狭い部屋のしきりを取り払って、少しの空間を作ったのは、自分の通夜のとき、いくらか使い易いようにと考えたのがひとつの中の理由であった。私はそれを息子や娘にむかってあっけらかんと口外する。生きている感覚は、自分の通夜を云々してそこに何の心情も伴いはしない。とすれば、自分の命の終わるときを始終おもう、ということも、あるいは嘘となるであろうか。嘘にならぬまでも、あくせくと動いている日常の力に頼っているということなのだろう。

昨年の一月は、中野重治の誕生日に喜寿を祝った。友人三人が中野の古稀を祝うその席で中野重治は、自分の葬儀のことをわれわれに言い残した。言い残したと言えるのは今だからであって、その席でのわれわれは冗談さえまじえての応答をした。あのとき中野重治は心臓その他に弱りがあったから、自身の葬儀について注文を出しておくというのも、私などのそれより実感のあるものだったろうか。それを私などは感得しなかった。
〔a〕不安さえ感じようとしなかった。たしかにそれは、感じようとしなかった、ということであつたろう。

中野の死はそれから七ヵ月のちである。それをおもうと、人間の気持ちの身勝手さ、あるいは不遜ということになるが、生きている日常の心の〔ア〕でもあろうか。

一年が、ついこの頃の内に飛び去るようにおもえたり、二、三年前のことかとおもう事柄が今年のことであつたり、という感じ方も、私の年齢のせいだろうが、その一年の内に中野重治を喪った^{うしな}去年は、今書いた事情で、一年そのものの重さとして残った。この思いの上で昨年は、私にもうひとつおもいがけないことがあって、一年の手応えが一層はつきりした。

十二月に入つてから、私はあるテレビ局の仕事で長崎へ帰つた。長崎は生まれた町なので、ふる里^{とぶら}を訪う、という番組に出るものだったが、幼時にこの町を出た私にはわが家などはない。が、幸いに生まれた家も、育った家も、原爆の落とされた地点からは逸れていて、建物そのものは残っている。しかしそれはもうよその人の家だから、何度か長崎へ帰り、その家の前に立つたとしても、家の中へ一步もふみ入ったことはない。殊に生まれた家は、私の幼時すでに人手に渡つていたから、その二階で生まれた、と聞かされてだけいて、自分の生まれた部屋を見たことはなかった。幼時からすでに、自分の生まれた部屋は、外から見上げるだけのものであつた。私の出生が、十五歳の少女を母としたものだったから、その少女は身を隠すようにその部屋におかれて私を生んだのである。父と母はまだ正式に結婚していなかつた。その事情を私も幼時すでに知つていて、自分の生まれたというその二階を見上げるたびに、私はいつも、幼い母の〔イ〕を思い浮かべたものなのである。今日までに何度も見上げたことだろう。しかしその二階へ一度はあがつてみたい、とおもつたこともなかつた。

それを今回はテレビ局が交渉してくれて、私は初めてその二階へあがることができたのである。七十五年前に自分がそこで生まれたという部屋に、いわば初めて私は、自分の足をふみ入れた。としても嬰児に何の記憶がある。私はその部屋に立つて私を生むときの母を想像し、その思いを追つたに過ぎない。しかし長年外から眺めていたので、今度はその二階の内から往来を見おろして、そのことに感慨を〔b〕。

私が生まれたときのこの家は、祖母の生家だった。万延元年生まれの祖母の年齢から數えても百十九年経過している。家はもう老朽していた。近々取り壊して建て替えるというのを、階下の表一部屋だけある商用に貸して、

内部は空き家にしたまま荒れるに [c] あった。私は虫喰いのあとについた二階のてすりを撫でた。この家ももう無くなるのである。つまり私はその間際に、私としては七十五年ぶりにその部屋に入ったのであった。
どうして七十五年も経つて今になって、自分の出生の場に立つ、などということがあったのだろう。そうおもうと、自分が何かによつて手玉に取られているような気さえした。とにかくそれは、今日まで生きていたからにちがいない。この一年があつてこそ出会つた、ということである。生きている間は、おもいがけない初めてのことにも出会う、ということなのであらうか。この思いは現在の心の去就に作用する。

(佐多稻子『一年の手応え』)

【1】 空欄ⒶⒶに該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問1 2】

- | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------|---|-----------------------|---|-----------------------|---|-----------------------|---|-----------------------|
| 1 | ① <small>ひだ</small> 璧 | 2 | ② <small>あや</small> 績 | 3 | ③ <small>おき</small> 織 | 4 | ④ <small>いと</small> 糸 | 5 | ⑤ <small>しま</small> 編 |
|---|-----------------------|---|-----------------------|---|-----------------------|---|-----------------------|---|-----------------------|

【2】 ①ときめき ②いななき ③ゆらめき ④きらめき ⑤おののき

【2】 傍線部「不安」の前に置く(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【3】 ①一時の ②一瞬の ③一抹の ④一生の ⑤一陣の

【3】 傍線部「感慨を」に続く(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【4】 ①深めた ②極めた ③高めた ④広めた ⑤納めた

【4】 傍線部「荒れるに」に続く(c)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【5】 ①委ねて ②被せて ③放して ④任せて ⑤束ねて

【5】 二重傍線部Ⓐと対になる表現として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【6】 ①行き方 ②行き先 ③行く末 ④行く方 ⑤行き末

【6】 筆者はどうして、波線部のように記したのか。その理由としてふさわしいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問7】

- 7
①今年こそはといろいろ考えていたのに、結局、何一つ満足の得られない一年だったので。
②もっと早くこの生家に来ていたら、何かをつかむことができたのに、遅すぎたので。
③どんなに年を重ねても、物事にはきちんと向き合おうという思いを、新たにできたので。
④厳しい状況のなかで自分を生んでくれた母の本当の心に、触れることができたので。
⑤様々なことが頭の中をよぎるが、それが年を重ねることだ、と再確認できたので。

【7】 【11】の三字熟語の表記として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【7】 **【解答欄は問 8】**

- | | |
|---------|---------|
| ① 「理不仁」 | ② 「理不尽」 |
| ③ 「理不腎」 | ④ 「理不陣」 |
| ⑤ 「理不甚」 | |

【8】 **【解答欄は問 9】**

- | | |
|---------|---------|
| ① 「往丈際」 | ② 「往情際」 |
| ③ 「往生際」 | ④ 「往状際」 |
| ⑤ 「往成際」 | |

【9】 **【解答欄は問 10】**

- | | |
|---------|---------|
| ① 「違和勘」 | ② 「違和觀」 |
| ③ 「違和慣」 | ④ 「違和管」 |
| ⑤ 「違和感」 | |

【10】 **【解答欄は問 11】**

- | | |
|---------|---------|
| ① 「生半禍」 | ② 「生半加」 |
| ③ 「生半化」 | ④ 「生半可」 |
| ⑤ 「生半過」 | |

【11】 **【解答欄は問 12】**

- | | |
|---------|---------|
| ① 「几帳面」 | ② 「記帳面」 |
| ③ 「基帳面」 | ④ 「氣帳面」 |
| ⑤ 「規帳面」 | |

【12】

三次の問【12】～【16】の作品とその主な舞台となつた国名・都道府県名の組み合わせのうち、正しくないものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

**【12】
【解答欄は問【13】】**

- | | |
|-------------------|-----|
| ①『氷点』（三浦綾子） | 北海道 |
| ②『飢餓海峡』（水上勉） | 青森県 |
| ③『ゼロの焦点』（松本清張） | 石川県 |
| ④『序の舞』（宮尾登美子） | 京都府 |
| ⑤『樅ノ木は残つた』（山本周五郎） | 東京都 |

**【13】
【解答欄は問【14】】**

- | | |
|-----------------|-----|
| ①『夫婦善哉』（織田作之助） | 大阪府 |
| ②『恩讐の彼方に』（菊池寛） | 大分県 |
| ③『夜明け前』（島崎藤村） | 長野県 |
| ④『カインの末裔』（有島武郎） | 岩手県 |
| ⑤『雪国』（川端康成） | 新潟県 |

**【14】
【解答欄は問【15】】**

- | | |
|---------------------------|------|
| ①『小公女』（フランシス・ホジソン・バーネット） | イギリス |
| ②『賢者の贈物』（オード・ヘンリー） | アメリカ |
| ③『ハーメルンの笛吹き男』（伝承） | スペイン |
| ④『赤毛のアン』（ルーシー・モード・モンゴメリー） | カナダ |
| ⑤『フランダースの犬』（ウィーダ） | ベルギー |

**【15】
【解答欄は問【16】】**

- | | |
|---------------|------|
| ①『忍ぶ川』（三浦哲郎） | 愛知県 |
| ②『沈黙』（遠藤周作） | 長崎県 |
| ③『青梅雨』（永井龍男） | 神奈川県 |
| ④『風の盆恋歌』（高橋治） | 富山県 |
| ⑤『坊ちゃん』（夏目漱石） | 愛媛県 |

**【16】
【解答欄は問【17】】**

- | | |
|-----------------------------|------|
| ①『クリスマス・キャロル』（チャールズ・ディケンズ） | イギリス |
| ②『誰がために鐘は鳴る』（アーネスト・ヘミングウェイ） | イタリア |
| ③『モンテ・クリスト伯』（アレクサンドル・デュマ） | フランス |
| ④『三人姉妹』（アントン・チェーゼフ） | ロシア |
| ⑤『若草物語』（ルイーザ・メイ・オルコット） | アメリカ |

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

四 次の文章を読んで、後の問【17】～【21】に答えなさい。

わが故郷、福井県大飯郡本郷村にある小浜線の駅だが、町村合併でいまは大飯町と村が町に昇格したけれど、駅の名は昔の「わかさほんごう」である、平べったい駅舎の改札口を出ると、すぐプラットホームになつていて、上下線の待合わせる機関車の前を走りぬけて、向かい側のホームへわたることになつていた。私が生まれてはじめて汽車に乗つたのも、この駅である。

いまはかなりな老木となつたが、子供のころは苗木に毛の生えたぐらいの若桜がホームに植えられていた。春がくると、いちめんに花が〔ア〕、その向こうの空に青戸^{あおと}の入江とよぶ海が水平線をみせてひろがつていた。

あれは、たぶん六つか七つだった。母につれられてこの駅で汽車にのり、青葉山^{あおば}にある松尾寺^{まつのお寺ら}へ詣でた日、石炭を焚く汽車の煤けた窓に顔押しつけて、外げしきのうしろへ走るのを眺めていたら、野道が眼の下のレールにへばりつくほど接近したかと思うと、急に、はなれて、弓字なりに海岸へ遠のいたり、踏切をつくって山裾^{もづ}へまわりこんだりするのが面白かった。大正十一年に開通した線路だから、ぼくの四歳の時には、ここを汽車が走っていたわけである。レールは、入り組んだ〔＊〕海岸よりに、まっすぐ糸をひいたようにつけられたので、旧道がそんなふうにまがりくねつて残つたのだろう。

山裾の谷には小部落^(ア)がイリモヤの藁屋根^{わら}をみせていたし、海には帆をたてた舟が浮いていた。私は見あきないけしきに、眼を〔イ〕いたが、ふと、その旧道を、一人の中年女が、髪を乱して、男を背負つて走る光景がとびこんできた。

その道は、赤土の道で、両側は水田になつていたので、さえぎるものは何もなかつた。女に背負われた男は、たぶん病人でもあろうか、女の肩へ両手をだらりとあずけて、顔をうつ伏せにしており、女はその男の尻のところへ、両手をまわして、時々、立止つては、せりあげ、せりあげして、走るのである。

それは、私が乗つている汽重と競走しているようと思つた。背中の男が病人ならば、次の駅からこの汽車にのつて、いくつかの駅をすぎねばならない高浜町の医者にでも見せるべく、女はこの汽車に乗りたいと思つて、走つているようにも思えた。

高浜駅だったか松尾寺駅だったかはつきりしないが、やがて、汽車はゆっくりと速度を落としてプラットホームへ入つて停つた。もちろん、男を背負つていた女が、その駅に走りこむ姿は見えもしなかつた。まだ、あの赤い野道を走つてゐるのだろう。

あれは、夫婦だったのだろうか。それとも、娘が父親を背負つて走るすがただつたか。子供心にも、大人の女が、大人の男を背負うて、髪乱して走るすがたは、この世のものとも思えぬ、〔ウ〕で、胸を打つた。

女が男を背負うけしきは、私には不思議に思えたのだが、このエタイの知れない男女は、その後も私の^{まぶた}臉にのつて、六十一歳の今日でも、故郷を走る汽車のことを思つてさへると、この一日の野づらがうかぶのである。

若狭本郷の駅は、つまり、男を背負つた女の走つていた道が、海岸へ遠のいている場所だった。

私は九歳の時に、この駅から故郷を出て、京都の禅寺に行つたのだが、出発する日は一月の雪のふるさなかだったので、駅舎も、田圃^{たんば}も、山も、桜の枝も、白一色になつていた。レールだけは二本の黒い糸をのばしたように浮いていた。

母は蓑^{みの}を着ていた。私は菩提寺の和尚にひきたてられるようにして、線路をこえて、汽車にのつた。この時、上り列車がまだ構内へ入つてきていなかつたので、連結台の破れた蛇腹状の布の穴をさがして、改札口の方を〔イ〕と、母が、部落からいっしょについてきた犬を足もとにすわらせて、改札の木柵に両手をついて、私の方を見ていた。私が手をふると、母は私の姿が見えもしないのにペコリと一つお辞儀した。それは、私のうしろに立つていた菩提寺の和尚に向けてさげたものではなくて、汽車に向かってさげたヒクツなお辞儀のように思えた。私は、母のみすぼらしい蓑を着たすがたにではなくて、お辞儀がかなしくて、泣きたくなるのに耐えた。九歳であ

るから、小学二年のときだ。

若狭本郷の駅のことを私は、この日以来わすれたことがない。母とのながい別れになつた思いがかさなるからでもあるが、前記したような、ある一日に、女が男を背負つて走つていたけしきも、それにかさなつて、いつもこの駅を通つて走る小浜線は、私の眼の奥の **〔＊＊〕** に焼きついて、いつも思い出されて新鮮である。

人の一生涯を旅にたとえる人がいる。もちろん、人間は、母の胎内を出た日から孤独な旅行者である。それにしても、故郷の駅は、現実の旅の出発点でもあって、暦の底の方でいつも輝いたり眠つたりしている。
私は、よく旅をしていて、故郷に似たような村に出あうと、いつも若狭本郷駅のけしきをかさねて、なつかしむ。桜は老木となつて、いまは、黒い肌にヤニをたらして、大きな枝をひくひくたれて駅舎の屋根を覆つている。花も四月中ごろに咲くが、どこかの旅先で桜の花をみても、この若狭本郷駅の花ざかりの、苗木のようだったころの桜の、枝に手のとどいたけしきがうかぶのである。

(水上勉『小浜線若狭本郷駅 故郷の駅』)

【17】二重傍線部①②の漢字の正しい読みを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 **18** **19**】

- | | |
|--|--|
| 18 ① やますそ
② やまぎわ
③ やまそで
④ やまはだ
⑤ やまえり | 19 ① じやはら
② へびはら
③ じやふく
④ へびばら
⑤ じやばら |
|--|--|
- 【18】空欄⑦～⑪に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 **20** ～ **23**】
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 20 ① みだれ
② こぼれ
③ あふれ
④ ながれ
⑤ うまれ | 21 ① つかれて
② おされて
③ はなれて
④ わすれて
⑤ とられて | 22 ① 息ましさ
② 忌わしさ
③ 凄まじき
④ 物欲しさ
⑤ 邪しさ | 23 ① 見わたす
② 見とおす
③ 見はらす
④ 見すえる
⑤ 見そめる |
|---|--|---|--|

【19】傍線部①～③の漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 **24** ～ **26**】

- | | | |
|---|--|--|
| 24 ① 入母屋
② 要母屋
③ 煎母屋
④ 炒母屋
⑤ 納母屋 | 25 ① 江体
② 会体
③ 柄体
④ 得体
⑤ 恵体 | 26 ① 非屈
② 被屈
③ 比屈
④ 疲屈
⑤ 卑屈 |
|---|--|--|
- 【20】空欄*と**に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 **27** **28**】
- | | | |
|-----------------------------|---|---|
| 27 *
28 ** | 1 ループ式
2 アプト式
3 リアス式
4 ドリル式
5 ベルト式 | 1 ライン
2 スクリーン
3 フォルム
4 シールド
5 ネガ |
|-----------------------------|---|---|

【21】筆者は波線部で、読者にどんな思いを伝えたかったのか。筆者の思いを、五十字で述べなさい。

【解答欄は記述解答用紙問 **29**】

【29】記述解答用紙へ